



国民の森林・国有林

## 芦北地区特定民有林 直轄治山対策室を開設

7月の豪雨災害で被災した熊本県芦北地域の県管理の治山施設や林地の復旧を国の直轄代行として実施するため、熊本県芦北地域振興局内に、10月1日、「芦北地区特定民有林直轄治山対策室」を開設しました。

業の対応、災害復旧事業計画書の作成や関係機関等との事業調整など、次から次に舞い込んでくる業務を意欲的に遂行していきます。



看板を掲げる小島局長(右)と江藤芦北地域振興局長(左)

現在、全国から4名の治山技術者を参集し、応急対策事業の対応、災害復旧事業計画書の作成や関係機関等との事業調整など、次から次に舞い込んでくる業務を意欲的に遂行していきます。



スタッフの皆さん(左から迫脇・松永・片山・中村)

大分県内の林業分野への就業を目指す  
担い手育成を支援

【大分森林管理署】10月19日、「おおいた林業アカデミー」を運営する公益財団法人「森林ネットおおいた」(理事長 重本悟氏)から講師派遣の要請により、大分県林業研修所(由布市湯布院町)に、植薄和彦森林技術指導官、廣田光春主任森林整備官、嶋徹也主任森林整備官、大城千英森林整備官補、木下昂大技官を派遣し講義を行いました。午後からの現地研修では、森林整備事業【活用型】実行中の豊後大野市千歳町に所在する権

### 人のうごき

- 芦北治山事業所駐在 片山雅明【林野庁治山課山地防災緊急対策官】
- 芦北治山事業所駐在 松永和久【近畿中国局岡山署総括治山技術官】
- 芦北治山事業所駐在 中村健一【福岡署治山技術官】
- 芦北治山事業所駐在 迫脇将季【東北局三八上北署地域技術官】

(担当)総務課



嶋主任森林整備官による講義の様子





現地研修の様子

【実行中のフィールドを活用して、大分愛林(有)川野社長から日頃行っている作業の中から、列状間伐の手法、伐倒をする際の無線機を活用した連絡・合図の徹底など実演を交えて行いました。

「おおいた林業アカデミー」は、平成28年度から実施されており、令和元年度までの4ヶ年に34名の研修生が卒業され、大分県内の林業分野で活躍されています。また、協力いただいた大分愛林(有)には、「おおいた林業アカデミー」第3期(平成30年度)卒業生2名が就業しており、林業技術を習得するため日々奮闘していることを紹介し第5期生へエールを送りました。

当署としましては、林業の担い手確保は重要な課題であると考えており、大分県で取り組まれている重要な施策でもあります。今後も要請があった場合は、積極的な支援を行い林業の成長産業化へつなげていく取り組みを進めていきます。

現尾国有林内で行い、高倉邦彦総括森林整備官、堀田信広首席森林官、蒲池勝也森林整備官を派遣するとともに、大分愛林(有)川野社長の協力により、伐倒、集造材の実演を行いました。

午前中の講義では、「①森林・林業の現状・課題②経営計画を樹立③路網作設」を各々1時間の持ち時間で説明しました。

午後からの現地研修は、権現尾国有林森林整備事業【活

## 目田林工の生徒さんをインターンシップ受入れ

【大分西部森林管理署】10月14日・15日の両日、大分県立日田林工高等学校が教育活動の一環として行っているインターンシップに協力して、進路を公務員希望としているという林業科2年生の生徒さん1名を、大分西部森林管理署で受け入れました。

生徒さんは初日、益田健太署長から当署の特色や管内概要等の説明、森本明次長から林野庁全般の業務内容の解りやすい説明を受けた後、若手

職員を交えたフリータイム形式で、現在の仕事の内容や公務員採用試験に向けてのアドバイス等の意見交換を行い、真剣に耳を傾けていました。

その後、田上誠総括治山技術官等から、治山事業や保安林制度について講義を受けた後、署を出発して、九重町の町田湧出山治山工事箇所へ移動して、UAVを活用しながら治山ダム群と保全対象を望み、治山事業の内容や効果等の説明を受け、聞き慣れなかったという治山事業の重要性を認識していました。



生産事業実行箇所での講義の様子

## 治山工事箇所での講義の様子

二日目の午前中は、町田湧出山の保育間伐活用型事業箇所を訪ね、白坂進総括森林整備官等から、事業内容の説明を受けた後、チェーンソーでの伐倒、高性能林業機械を使用しての採材等一連の作業を実際に目にして学んでいました。

午後から、玖珠森林事務所川原博首席森林

官等から、深刻なシカ被害の状況や有害鳥獣捕獲の重要性の説明を受けた後、シカわな設置作業とともに当署で最近導入している長距離無線式捕獲パトロールシステム「ほかパト」の活用状況を見学しました。その後署に戻って、インターンシップの内容を振り返り、最後に生徒さんから署員に対して、今回のインターンシップの感想として「林野庁の仕事は森を守るために働くことというふうと考えていましたが、今回の実習で森を通して国民のために働くことと考え方が変わり、林野庁に





シカ民についての講義の様子

「連合の森」において森林整備作業を実施していますが、本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、地域協議会幹事だけによる次年度以降の整備計画作成のための検討作業を、10月24日に現地で開催しました。

当日は、地域協議会関係者13名のほか当署からも溝越啓二次長、下大迫伸一総括森林整備官、歌野邦美総括治山技術官、後藤貴裕森林整備官、濱口絵里奈森林整備官、濱田祥吾森林整備官の6名が参加し、開会式では溝越次長から「27年間の長きにわたり森林整備作業を続けていることに敬意を表するとともに、このすばらしい森林が次世代に繋

## 「連合の森」の整備計画を検討

【熊本森林管理署】連合熊本菊池阿蘇地域協議会は、毎年「列島クリーンキャンペーン」の自然環境保全活動の一環として、当署との分収造林地

に対して興味が沸きました」との心強い挨拶が述べられ、署員から拍手が湧き上がっていました。



遊歩道検討作業の様子

例年であれば多くの会員とその家族が参加して、森林整備作業と森林教室を実施していますが、来年度は新型コロナウイルスも終息して森林との触れ合いを楽しんでもらえるように、当署としては国民参加の森林づくりと森林環境教育活動を推進していく考えです。

がるように継続した活動を期待します」と挨拶しました。参加者は、「連合の森」内を散策し分収木の生長状況を確認するとともに、設置してある遊歩道の損傷状況の確認を行い、次年度以降の整備箇所の検討を行いました。



挨拶する溝越次長

## 交通安全講話・子どもの健康づくり講話をいただきました

【大分西部森林管理署】10月5日、日田市複合文化施設「アオーゼ」に講師をお招きし、交通安全講話とこころの健康づくり講話をいただきました。

交通安全講話では、日田警察署交通課宿利巡查長から、自動車走行シュミレータにより、職員一人ひとりが走行中どこで危険を感じ取ったかを記録しながら、危険の認知や判断が適切だったかを指導いただきました。

シュミレータの画面には、自動車の発進や交差点での右左折、停止車両横の通過、車



自動車走行シュミレータによる講話の様子

線の合流といった際に起こり得る様々な場面が映し出され、運転する車が関係車両からはどのように見えているかといった多角的な視点に基づいて、危険と事故を回避するためにとるべき行動が講師から説明されました。また、先般厳罰化されたあおり運転からの防御法や、日田地域での交通事故の概況などについても説明があり、公私を問わず安全運転を改めて心掛ける機会を得ることができました。

こころの健康づくり講話では、別府溝部学園短期大学幼児教育学科西村薫教授から、物理的な信号を心理的な情報に置き換えているこころの仕組みについてのお話や、出来事と感情の間には思い込み、レッテル貼り、自己批判、深読み・先読みといった、考え方の癖とも言える「自動思考」が存在することについてのお話がありました。また、情報の伝達の際に5W1Hを適切に要約・共有することにより、職場のコミュニケーションでの誤解やトラブルを避けることができるといったお話がありました。

講話の最後には幼児教育で取り入れられているという「一息を合わせろためのワーク」として、掌に薄い紙を乗せ、





「息を合わせるためのワーク」の実技

紙と心を通わせるつもりで紙が落ちないように腕を振ったり、紙をボール状に丸め、向かい合った職員同士で、相手が決められた回数手を叩いてから受け取れるように配慮して投げ合うといった体験も行われ、童心に返って会場に歓声が上がった場面もありました。

今回の行事は、コロナ禍で4月に開催を見送った定期出席日に併催したもので、「3密」を避けるため公共施設を借り、これらの講話のほか、綱紀保持のための勉強会や業務打合せも実施しました。今回の講話等を通じて、職員間においてはより密接にこころを通わせながら諸業務を進めていく考えです。



日高 和笑さん

親の介護で、宮崎市内から山間の道路を通り田舎へ帰るといいう生活になり10年以上になります。

最初は父の介護での通いで、仕事をメインに週末の休みに介護をしていました。通う道路からは飢肥杉が、みごとに景観を見せてくれて、癒しを与えてくれました。今は、母の

「よみがえれふるまひの森」

介護をメインに、週のほとんどが通いと泊まりになりましたが、癒してくれた飢肥杉の景観は、激変しました。ほとんどの飢肥杉は伐採され、むき出しの地肌が痛々しい姿を見せています。

最初の頃、伐採された山には杉の苗が植えられて、若木の成長の早さに「さすが、飢肥杉」と感心していまし

たが、今は、いつ杉の苗の植林がなされるのだろうか、むき出しの地肌は、大丈夫だろうか、災害の引き金になるのではないかと心配でなりません。なかなか飢肥杉の植林がなされないのは、植え手がないからだろうか、苗木が不足しているのだろうか。そもそも、これらの山は、誰が管理しているのだろうか、緑のオーナー制度とか話題になったことがあったが、今はどうなっているのだろうか、等々、気になるようになりま

した。

モニターになり、たぐさんの資料が送られてきて、なんと多岐にわたる活動がなされているのだろうと驚きました。

私が「是非皆さんに行ってほしいな」と思っている宮崎県日南市の山林が二ヶ所あります。一ヶ所は、父が連れて行ってくれた、三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林です。「自然はいいよな」と一言。父の顔には、長い年月に培われてきた森林の歴史に対する愛着が見て取れました。

三ツ岩オビスギ遺伝資源希少個体群保護林は、400年の歴史を有する飢肥林業唯一の古い年代の造林地で、明治11年の山床直挿しの造林地と言われており、オビスギの成長過

程を知るための貴重な林分で、全国からの見学者も多いです。二ヶ所目は、猪八重溪谷です。8月号の「林野」に掲載されましたが、滝やコケ、奇岩を有する溪流、原始的な広葉樹林が知られています。ここには、アカショウブの営巣地があり、独特の鳴き声が聞かれます。また、海に沈んでいたころの化石があります。

私の記憶の中には、中学一年の担任だった先生から聞いた言葉「猪八重の自然は極相林でとても貴重です」が、いつもあります。



日本の大事な森林のことを何も知らないと思いと、父が関わった国有林のことをもっと知りたいとの思いから、モニターに応募しまし

た。

モニター経験で知識を得て、微力ながら森林保護活動等に関わることができるようになりたいと思います。

(宮崎市在住)



## 令和2年度宮崎県国有林野等 所在市町村等有志協議会を開催

【宮崎森林管理署】10月30日、シーガイアコンベンションセンターにおいて令和2年度宮崎県国有林野等所在市町村長有志協議会を開催しました。

今年度はコロナ禍ということもあり、例年より広い会場で、検温、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、手指の消毒など万全の感染症予防対策を図る中、宮崎県森林・林業活性化議員連盟連絡会議の星原透会長、宮崎県環境森林部の佐野詔蔵部長を来賓に迎えて挨拶を賜り、続いて小島



開会にあたり挨拶する小島局長

局長からは、まず、九州森林管理局長内浩昭保全課長より令和3年度の林野庁予算要求の考え方、森林経営管理制度の取り組み、森林環境譲与税の活用事例、令和2年度の九州森林管理局の重点取組事項、7月の豪雨災に伴う国有林の取り組み概要、コロナ禍における国有林材の供給調整の取り組み等について、次に、飯干好徳宮崎森林管理署長より宮崎県内の森林管理（支）署等における重点取組事項と主要事業量について説明がなされました。



挨拶する代表世話人押川西都市長

続いて、事前に頂いた市町村からの提起・要望事項等について各森林管理署（支）長が回答・説明しました。その他では、登山道の管理のあり方、コロナ禍の中で林野庁主催の研修「地域林政アドバイザー」をリモート研修か地方での分散研修と出来ないかの意見・要望が出されました。最後に、押川座長より、地域社会と国有林の連携強化を図り、もって農山村の社会経済の発展と国有林野事業の円滑な遂行に寄与する、という本会の基本理念に従い、今後の更なる本会の発展と国有林としての役割を果たしていくことが重要との挨拶を賜り、会を終了しました。



有志協議会の様子

## 「森を身近に！森の セミナー」を開催

【熊本南部森林管理署】10月24日当署会議室において、山の日記念イベント「森を身近に！森のセミナー」（当署主催・球磨地域振興局共催）を開催しました。

当日は、講師に環境省希少野生動物植物保存推進員の乙益正隆氏を迎え、一般参加者を含む総勢21名が参加しました。はじめに当署の小薄政弘総括森林整備官が講師となって「コケのテラリウム作り」を行いました。



乙益氏による講義の様子

その後、乙益氏より「貴重な植物の話」と題し、市房杉や身近にある薬草、植物の紹介などユーモアを交えながらの講話で、参加者全員熱心に聞き入っていました。

今回は新型コロナウイルス感染症や豪雨災害の影響



参加者で記念撮影

コケのテラリウム作りでは、赤星良治署長も一般参加者と一緒に色々なコケや材料を組合せながら独創性のある素晴らしい作品が完成しました。



で小規模での開催となりましたが、最後まで笑顔が絶えずとても有意義なセミナーとなりました。

## 労基署・林災防・福岡県と 合同パトロールを実施

【福岡森林管理署】10月26日、福岡県での林業労働災害防止に向けた取組として、田川労働基準監督署川島産業安全専門官、林災防九州・沖縄地区担当石川安全管理士、福岡県飯塚農林事務所5名及び福岡森林管理署5名による合同パトロールを、当署の請負作業

現場と民有林の作業現場で実施しました。

午前中は、福岡森林管理署直方森林事務所管内の森林整備事業の保育間伐（活用型）の現場において、プロセッサによる造材とフォワーダによる丸太運搬、積積作業について、パトロールを実施しました。

はじめに、当署直方森林事務所との田中和利地域統括森林官が作業概要について説明し、その後作業の状況を確認しました。

パトロール実施後の総括では、石川安全管理士より林業機械での災害が多く発生しており、材を運搬する際は積載量を確保することを、



プロセッサでの造材を点検

川島専門官からは機械運転者の合図確認を徹底することなど、指導がありました。

午後は、民有林の現場において添田町森林組合が搬出間伐を実施している作業箇所のパトロールに当署職員も同行しました。はじめに福岡県飯塚農



伐倒木の伐根を点検

林事務所桑原林業振興課長より、福岡県での林業労働災害の現況、労働災害の事例、安全な伐木造材のポイントなどの説明があり、その後は伐倒作業を確認し、さらに、伐根の状況を元に適切な受口切り、追口切りの方法について意見交換を行いました。

パトロール実施後の総括では、石川安全管理士より、基本どおりの伐倒手順が大切であること、予め伐倒合図の確認や退避場所の選定をすることが必要であることなど、安全な伐倒作業についての指導がありました。

また、川島専門官より、近年は作業道からの林業機械の転落事故が多く、路肩に十分注意し走行や誘導を行うよう指導がありました。

今回の合同パトロールを踏まえ、当署における請負事業体等の労働災害の未然防止に努めていくことを確認するとともに、労基署・林災防・福岡県に対し国有林の労働安全衛生管理に係る継続的な指導及び支援を要望し、パトロールを終了しました。

## 交通安全優良 事業所表彰

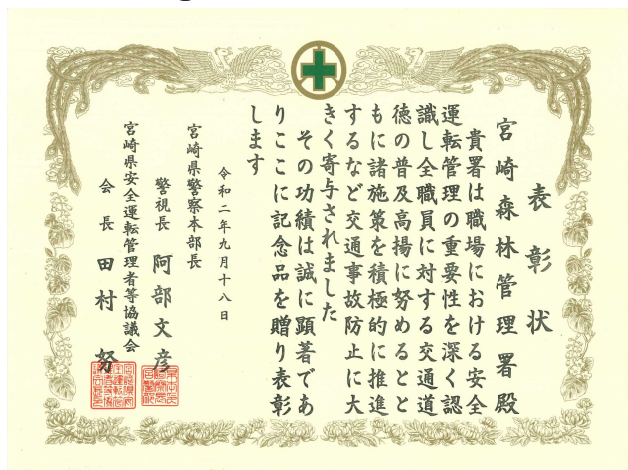
で横断歩行者の安全を守る⑤飲酒運転及び酒気帯び運転は絶対にしていない⑥等を掲げ、安全運転の取り組みを進めてきたところです。

また、執務室出入り口に安全運転啓発のぼりを掲示し、職員の安全運転に関する意識付けに取り組みと共に、宮崎北地区交通安全協会提供の交通情報等を職員間で共有するなど安全運転への意識の啓発にも努めているところです。

この表彰を機に、当署の無事故・無違反が継続できるように、さらなる取組を行うこととしていきます。

### 【宮崎森林管理署】

9月18日、宮崎森林管理署は宮崎北警察署並びに宮崎北安全運転管理者等協議会から「交通安全優良事業所」に選定され、表彰されました。当署では、安全運転5原則（①安全速度を必ず守り、特に林道では路面状況に合わせた安全運転を行う②カーブの手前ではスピードを落とす③交差点では必ず安全を確かめる④一時停止





# 衛生講話と安全 勉強会を実施

【鹿児島森林管理署】令和2年度の国家公務員健康週間中の行事として10月7日に衛生講話と安全勉強会を実施しました。

当日は午前中、健康管理医である前田内科クリニックの前田先生から「新型コロナウイルス及び令和2年度健康診断結果の推移」についての講話を受け、その後、安全指導で来署中の九州局山部義臣総務課長から労働災害・交通事故等の発生状況及び予防策についての指導を受けました。午後からは、JAF鹿児島



前田先生による講話の様子

支部から講師2名を招き、「車両点検、交通安全に係る車両の豆知識」と言うテーマで講話と実際に車両を使用した車両点検のポイント等について学びました。

衛生講話では、新型コロナウイルス感染症との違いについてのお話の後、職員の健康診断の分析結果等について詳しく講話をしていただき、車両の豆知識では、豪雨災害等で浸水した車両からの脱出方法や車両の取扱等について学び、たいへん有意義な一日となりました。今後も自らの健康管理、安全運転の励行により業務に取り組んでいくことを誓いました。

# 第2弾・森林詳細 調査で学ぶ！

【宮崎南部森林管理署】10月6日～7日に新村保護林の設定に向け、森林基礎調査業務委託者（九州自然環境研究所）が調査を行っている森林詳細調査に、局計画課3名、保護林委員会委員である岩本名誉教授（宮崎大学）と当署職員8名が同行し実施しました。

初日は現地に向かう道中で、テンなどの野生動物の痕跡を発見し、アオキに残されていた食痕は宮崎県南には生息していないとされていたニホンジカによるものだと聞かされました。



車両点検のポイント等について学ぶ

現地の森林調査では、九州自然環境研究所の方や、岩本名誉教授に樹木や下層植生の名称の特徴を教えて頂き、2日目は参加者全員で川を渡り、急傾斜の林地を登り2時間半ほどかけて調査ポイント



草本類の調査の様子



樹種判定の方法を学ぶ

へ向かいました。道中では初日と同じく樹木や下層植生の名称や特徴を教えてくださいながら実施でき、



プロット設定の様子

# 林業技術向上促進 現地検討会に参加

調査地への道のりが長かったので、多くの樹木や下層植生を見て知ることができ、幅広い知識を身につけることができました。

【鹿児島森林管理署】10月6日に伊佐市大口針持崩ヶ平国有林2016へ・と林小班にて始良地区素材生産事業共同組合主催の林業技術向上促進現地検討会が開催され、鹿児島署からも森林官等含め15名が参加しました。

この検討会は事業体の造林





ドローンの取り扱い等について説明を受講

行していきました。デモンストラクションでは1人で操縦する1オペレーション型と2人で操縦する2オペレーション型を使用し、それぞれの利点や特徴を説明し実際に特定の箇所に苗木を運搬するところを見学しました。1オペレーション型ではアプリ

ケーションで飛行プログラムを設定し自動飛行で運搬作業をすることを目的とし省力化・人件費削減を両立できま

す。そのため、運搬作業に人手をとられず苗木運搬の場合植栽作業も並行して実施することができ作業スケジュールの短縮が可能になるとのことでした。2オペレーション型では2台の操縦機で1台のドローンの操縦を行うオペレーション仕様のため見通しの悪い林内でも全ての作業を目視内で安全に行うことができます。そのため、カメラや自動操縦では困難な狭小な場所への運搬作業が可能になるとのことでした。

その後、各事業体を含めた意見交換会を行い、最後に古市真二郎北薩森林管理署長が講評を行い林業技術向上促進現地検討会を修了しました。

## 安全勉強会を開催

【大分森林管理署】10月20日、豊後大野市朝地に所在する神角寺国有林2052林班内において各森林事務所森林官が講師となって、延期となっていた令和2年度第2四半期安全勉強会を開催し職員26名が参加しました。

はじめに、猪島明久大分森林管理署長から公務災害の発生状況を説明し、その中で、「今回は、伐倒による災害、刃物による災害に焦点を当て類似災害の防止を目的に安全勉強会を実施します。本日は、

本日の講師を代表して、竹田森林事務所 森利幸地域統括森林官から、安全勉強会の内容や進め方を説明したあと、各（首席）森林官から伐倒する際の基本的事項の説明、刃物を研ぐ場合の基本的事項の説明があり、保育間伐2班と刃物の研ぎ方2班にわけて、実際の作業に入りました。伐倒では、受け口、追い口の入れ方、上方確認、待避場所の確認、また、かかり木処理ではチルホールを使って安全に処理する作業を体験しました。刃物の研ぎ方では、研ぐときの角度・鉈の持ち方などを学び参加した職員全員が安全意識を高めました。

作業内で重労働である苗木の運送をドローンにより実施することを推進するためのデモンストラクションであり、今後の事業体の省力化・作業効率化を進めていくために重要な検討会です。当日は始良地区素材生産事業協同組合 有馬代表理事から、「今後の事業体における重労働からの解放や作業効率アップに繋がるよう有意義な時間になりたい」との挨拶があり、永山正一鹿兒島森林管理署長の来賓挨拶、三好産業 濱田山部長の現地概要の説明、株式会社山進 山崎代表取締役からのドローンを使った実演をメインに検討会が進



苗木運搬についての説明を受講



ドローンによる苗木運搬のデモンストラクション

伐倒及び刃物の取り扱いの経験が豊富な工藤行政専門員、美村行政専門員、夏田行政専門員の3名が参加いたで、その知識や技術を修得するとともに、今後の類似災害の防止等に役立て欲しい」と挨拶を述べました。



冒頭挨拶する猪島署長



本日の安全勉強会で学んだ、「伐倒の安全基準」、「刃物の研ぎ方」を、日常の監督業務、林野巡視、収穫調査時などに役立てることをしました。



かかり木処理の様子



腰鉈研ぎの様子

## 心の健康づくり 講習会を開催

【宮崎南部森林管理署】10月22日、当署の健康安全管理計画書に基づき心の健康づくり講習会を開催しました。

講習では、まず、ストレスチェック結果を活用した場合と活用しなかった場合を比較し、制度の活用の活かし方とセルフケアの方法を考えることについてDVDを視聴しました。この中では、ストレスチェックを活用しストレス状態を把握することの重要性やセルフケアによるストレス解消法について学びました。



松永次長による講話の様子

その後、松永眞弥次長から人事院の冊子「国家公務員とメンタルヘルス」により、趣味などによる自分に合ったストレス解消法を身につけることや困難な問題に直面したときの適切なストレス対処行動などのストレスコントロールについて講話がありました。

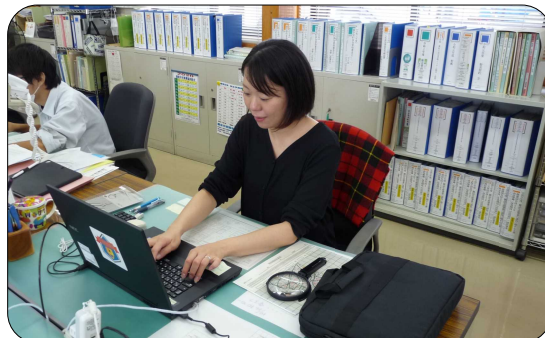
当署においても職員数の減少や業務量の増加も一部ありますが、職場のコミュニケーションを更に良くし相談しやすい雰囲気づくりに心がけるとともに、ストレスによる心と身体の様々な反応もあることが分かったことから、気持ちやすい兆候を見逃すことなく、心の病気を発症させない明るく風通しの良い職場環境づくりに引き続き努めていきたいと思えます。

## 「風情ある安全標語」

【宮崎北部森林管理署】当署の月間安全標語は、月毎にとっても風情のある標語となっています。

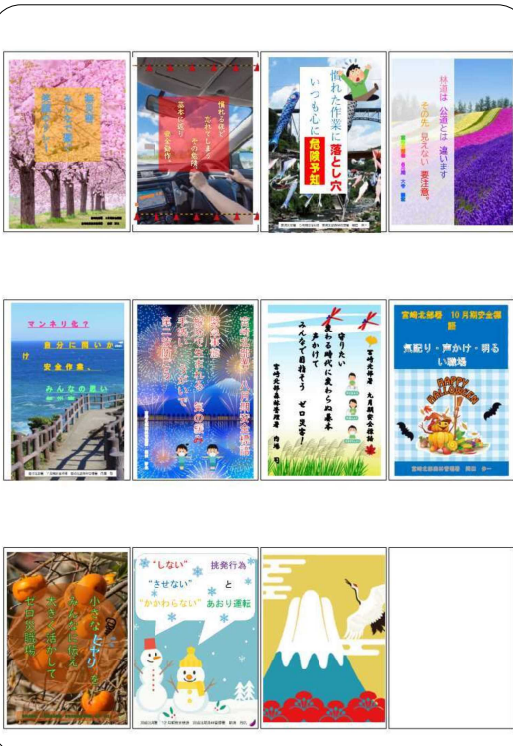
事務的な安全標語ではなく、非常勤職員の落合玉絵さんが独自の工夫により毎月作成しており、殺風景な事務室の壁に暖かみのある絵柄に書かれた安全標語が職員を笑顔にし、日々の安全意識を高める一役を担っています。

しかし残念ながら、この度めでたくご懐妊ということで、年内をもって当署をお辞めになられることとなっています。



安全標語を作成する落合さん

職員一同、寂しい気持ちですが、落合さんの安全標語を今後とも引き継ぎ当署の安全管理に活かしていきたいと考えています。



安全標語集



# ドローン勉強会を実施

【福岡森林管理署】10月13日、

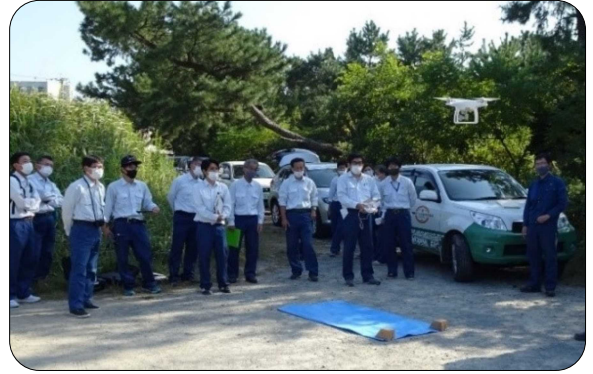
マツ枯れ被害木調査や豪雨等の災害調査における迅速な被害情報の収集に活用すること等を目的として、署内職員が参加してのドローンを活用した各種災害調査実施に向けた勉強会を実施しました。

冒頭、佐藤署長より「豪雨時の災害調査においては二次災害の危険を伴いながらの被害調査が行われ、また、福岡署が管理している各地域の松原の被害木調査等の管理においては、多大な時間と労力を要しており、今後職員がドローンを活用できるよう、こ



ドローン飛行についての勉強会の様子

勉強会では、若手職員のホープである丸岡仁人さんが講師を務め、午前は、ドローンに関する法令等やドローンの自動操縦及びオルソ画像の作成方法について学びました。また、オルソ画像についての説明や自動操縦のための事前準備について実演も行われました。午後は、中裏付国有林にて実



ドローン飛行の様子

の勉強会でドローンの自動飛行等の技術を習得してほしい」と挨拶がありました。

際にドローン飛行を行い、ドローンの手動操縦および自動操縦を体験しました。

昨年度、福岡県と、林野災害時等におけるドローンを活用した森林情報の共有について連携・協力する協定を締結しています。幅広いドローンの活用のため、今後ともドローンを活用した迅速な情報収集や福岡県との連携に取り組んでいきたいと思えます。

## 今年度2回目の早生樹(センダン)の芽かきを実施

【宮崎南部森林管理署】早期の生育が期待される「早生樹」の育成に関心が高まっている中、皆伐跡地の林縁に20本植栽し育成しているセンダンの

芽かきを5月に実施しましたが、猛暑の夏も終わり生長が一段落したので、10月15日に今年度2回目の芽かき作業をOJTも兼ね職員6名で実施しました。

お互い密にならないようにしながら、直材にするにはどう仕立てていった方がいいか、芽かきをする上でどの芽を残すか各自大変悩みながらの作業を行い、枝の切口には塗布する殺菌剤(トップジンMペースト)が手に付かないよう注意しながら、添付作業を行いました。

植栽してから1年半経過しましたが、中には植栽時より2メートル24センチも伸び、樹高3メートル40センチに生長しているセンダンもあり、



殺菌剤を塗布する様子



根元直径測定の様子

職員が手をかけて育成しているセンダンの今後の成長に期待しているところであります。



樹高測定の様子



# 乙島国有林を視察

【宮崎北部森林管理署】秋晴れの10月13日、管内の門川町に所在する唯一の国有林である、乙島国有林1123林班において、金丸隆康副町長他まちづくり推進課長等々と局保全課甲斐和幸鑑定官等及び黒木興太郎署長他関係職員総勢15名で視察を実施しました。



乙島

乙島は、門川町のシンボルとして位置づけられ、平成23、30年に利活用要望が提出されており、現在はキャンプ場や各種イベントなどで活用されていますが、町ではさらなる活用を検討しており、買い受けを含めて継続案件となっております。

岸の織りなす自然美や雄大な太平洋を望む日豊海岸国定公園であり、以前には乙島風景林レク森として制定されていきました。

今回の視察は、本年4月の異動により局担当者並びに当署関係者も替わったことから、改めて門川町との疎通を図る目的で実施しました。現地では、境界標の有無や面積確定の方法等が話し合われ、今後の方針についての認識を新たにし、双方の情報共有ができました。



情報交換会の様子



視察参加者(下船の様子)

# 技術交流発表大会に参加

【熊本森林管理署】本年度の森林・林業の技術交流発表大会は、新型コロナウイルス感染症の状況により、オンライン方式による開催となりましたが、当署からは濱田祥吾森林整備官と西田卓矢森林整備官補が「コウヨウザン人工造林地の生育状況と今後の課題について」と題して、当署管内にある62年生のコウヨウザン人工造林地の生長量と萌芽更新状況の調査、解析を行うとともに、コウヨウザンの今後の課題について研究し発表しました。



リハーサルの様子

当署では、発表大会に先立ち10月7日にリハーサルを署会議室において署内職員参加のもと開催し、本番さながらの動画による発表内容をチェックするとともに、参加者からスライドや発表内容について適切なアドバイスや質問が出され、本番に向けた準備を行いました。



発表大会当日の様子



